

# 公共事業再評価調査

担当部課室名	県土整備部 河川砂防課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 6 3
		E - MAiL	kasensabo @ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 ( 年 )	再評価後 ( 5 年 )	その他 ( )
---------	-----	------------	--------------	---------

## 1 事業概要

事業種別	河川改修事業	事業主体	県	市町村	その他 ( )			
事業名	十川広域基幹河川改修事業	地区名等	-	市町村名	五所川原市、板柳町、浪岡町、常盤村			
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国 50%	県 50%	市町村 % その他 %			
採択年度	S 2 6 年度 (用地着手 S 2 6 年度 / 工事着手 S 2 6 年度)							
終了予定年度	H 3 0 年度 ( S 5 5 年 7 月計画変更 当初計画時 H 3 0 年度 )							
事業目的	自然環境の保全に配慮しながら河川改修の工事を行い、十川沿川の人家や田畑を洪水被害から守る。							
主な内容	全体改修延長: 2 0 , 4 0 0 m ( 下流工区 4,300m、上流工区 16,100m ) 築堤 L=40,800m、掘削 L=20,400m、護岸 L=4,300m、道路橋 N=11橋、私鉄橋 N=1橋、用地買収 A=753,050m <sup>2</sup>							
事業費	再評価時総事業費 26,000 百万円 (単位:百万円)							
		~ 12年度	13年度	14年度	15年度	小 計	16年度~	合 計
	計 画 (うち用地費) 年 月変更	( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )	20,265 ( 6,118 )	5,735 ( 1,732 )	26,000 ( 7,850 )
	実 績 (うち用地費)	13,063 ( 4,349 )	740 ( 480 )	750 ( 512 )	534 ( 480 )	15,087 ( 5,821 )	10,913 ( 2,029 )	26,000 ( 7,850 )

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗 ( 74.2% ) [ / ]		年次計画に対する進捗 ( 74.4% ) [ / ] ( 95.1% ) [ / ]	
	主要工種毎割合 (事業費)	築堤(2,365百万円)	延長割合	53.3%	延長割合	80.5%
		掘削(2,575百万円)	延長割合	43.8%	延長割合	56.2%
		道路橋(1,170百万円)	箇所数割合	72.7%	箇所数割合	85.3%
		私鉄橋(1,532百万円)	箇所数割合	100.0%	箇所数割合	128.3%
		用地買収(3,650百万円)	面積割合	49.0%	面積割合	62.8%
説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修延長が長いこと、全体としての進捗率は高くないが、全区間にわたり一次改修を完了させ、段階的な流下能力の向上を図っている。</li> <li>現在、二次改修として岩木川合流点から4,300m(下流工区)を重点区間に定め、橋梁等の多額の費用を要する大型構造物の改築を進めており、事業は計画どおり進んでいる。</li> </ul>					
問題点・解決見込み	-					
事業効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>全区間にわたり一次改修が完了しており、整備効果を発現している。</li> <li>二次改修として、計画規模(1/50)を目指し下流部から階段的に治水安全度を向上させており、浸水被害の低減が図られている。</li> </ul>					

### (2) 社会経済情勢の変化

(A) · B · C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>[全国の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の異常気象により、全国各地で局地的豪雨による氾濫被害が発生しており、これら河川の災害対策及び治水安全度の向上が急務となっている。</li> <li>近年の河川環境に配慮した河川整備に対する関心の高まりに対し、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</li> </ul>	<p>[県内の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の河川の整備率は約32%と東北6県平均41%に比べ立ち遅れており、毎年、各地で浸水被害が発生していることから、今後とも整備率向上に向け積極的に河川改修事業を進めていく必要がある。</li> <li>地域住民の水辺環境への関心は高く、自然環境に配慮した多自然型川づくりによる整備が求められている。</li> </ul>	
	当地区における評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩木川に合流する十川下流部は、本川岩木川の増水に起因した浸水被害が発生し、昭和52年8月の大雨では床上浸水44戸、床下浸水251戸の被害を受け、流下能力の向上が必要な河川である。</li> </ul>		
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>十川は一級河川であるが、本事業区間は国直轄管理区間外で、河川管理者は県であることから、事業主体は青森県になる。</li> <li>想定氾濫区域内には約35,600人が居住し、想定氾濫被害額は約344億円と見込まれる。</li> <li>五所川原市の十川沿川には学校、住宅団地(広田団地、五所川原市南部土地画整理事業区域)、工業団地(姥范団地)等があり、社会的、経済的重要性が高い地域である。</li> <li>このため、計画規模1/50(50年に1回発生するような大雨)とする本事業を今後とも計画的に進める必要がある。</li> </ul>		(a) · b	
適時性	<ul style="list-style-type: none"> <li>十川の改修はS54年度までに全川にわたる一次改修が完了したが、治水安全度は1/2(2年に1回発生する程度雨)と低く、S52年8月の大雨により浸水被害が発生した。</li> <li>このため、S55年度全体計画を変更し、治水安全度を1/50とする二次改修に着手している。</li> <li>流下能力は計画洪水流量940m<sup>3</sup>/sに対し、岩木川合流点から約2kmまでは65%、その上流は36%と未だに低い。</li> </ul>		(a) · b	
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地権者や地域住民は本事業の趣旨を理解し、本事業は円滑に進んでいる。</li> <li>地域住民が河川愛護の精神から、ボランティア活動の一環として河川清掃を実施している。</li> </ul>		(a) · b	
効率性	-			

## (3) 費用対効果分析の要因変化

(A) · B · C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増 減
費用項目 (C)	(1) 建設費	51,095 百万円	54,018 百万円	2,923 百万円
	(2) 維持費	6,398 百万円	6,778 百万円	380 百万円
	(3) 残存価値	-381 百万円	-446 百万円	65 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	57,112 百万円	60,350 百万円	3,238 百万円
便益項目 (B)	(1) 治水	138,694 百万円	161,996 百万円	23,302 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	138,694 百万円	161,996 百万円	23,302 百万円
	B / C	2.43	2.68	
【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) 治水経済調査マニュアル(案): H12.5 【費用対効果分析における特記事項】 -				

## (4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) · B · C

コスト縮減	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河道内の掘削土を築堤に流用することにより、経費の縮減を図っている。</li> <li>管理用道路の路盤材に再生砕石を使用し、経費の縮減を図っている。</li> </ul>	(a) · b
代替案	<p>【代替案の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水を一時的に貯留するダム、遊水地を代替案として検討した。</li> <li>ダム案：良好なダム適地がない。</li> <li>遊水地：2～3個の遊水地を必要とし、広大な水田が消失するため、社会経済に及ぼす影響が大きすぎる。</li> </ul>	(a) · b

## (5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) · B · C

住民ニーズの把握状況	<p>【住民ニーズの把握方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区毎に工事説明会や用地説明会を開催し、地区住民の意見を聞くと共に、個別の用地交渉の場においても住民の要望等を把握している。</li> </ul>	<p>【住民ニーズ・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>十川沿川は住宅団地等の土地利用が進んでいることから、改修促進に対する要望が多い。</li> </ul>	(a) · b
環境影響への配慮	<p>【地域別環境配慮指針への対応】</p> <p>(1) 地域区分 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Tn3c</span></p> <p>(2) 対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>護岸は必要最小限にとどめるとともに、河岸は緩い勾配とし植生で覆うなど、生物の良好な声域環境や、自然計画の保全に努める。</li> </ul>	<p>【開発事業等における環境配慮指針への対応】</p> <p>配慮している 配慮していない</p>	(a) · b
地域の立地特性	-		

## 3 対応方針

総合評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	・近年、局地的豪雨等による甚大な浸水被害が県内各地で発生している状況から、十川沿川住民の生命財産を洪水被害から守る本事業は、継続して実施する必要がある。			
備考				

## 4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見				
評価理由				